

欧州心臓病学会で最優秀

木沢記念病院（美濃加茂市）循環器病センター長の青山琢磨医師（五）が、八月にスペイン・バルセロナで開かれた欧州心臓病学会で、心不全部門の最優秀賞を受賞した。抗がん剤によって誘発される心筋症や心不全を防ぐ糸口となる研究発表が評価された。

（平井一敏）

青山琢磨医師（美濃加茂・木沢記念病院）

同学会は八月二十六～三十日にあり、世界乳がんなどの治療に使われる抗がん剤「ドキソニン」を投与する百件の演題の中から選ばれた約四百件が会場で発表され、心不全や不整脈など九つの部門ごとに最優秀賞が選ばれた。



最優秀賞の賞状を手にする青山医師
（左）美濃加茂市の木沢記念病院で

抗がん剤による心不全防ぐ研究評価

した個体は、抗がん剤を投与しても心筋細胞の炎症などが起きず、心不全にならないことが確認できたという。

心不全は、体内の活性酸素が深く関係していると考えられている。青山さんは、活性酸素の発生に関わるとされるLOX-1に着目。

岐阜大医学部付属病院病棟医長から現職に就いた三年前から、各務原市の横山ちはる医師らと協力して本格的に研究を進めてきた。

抗がん剤による心不全の治療法は確立されていない。青山さんは「LOX-1の働きを止めることで、抗がん剤の重篤な副作用を防げるかもしれない。新薬などの研究が進み、今後のがん治療に役立てられたらうれしい」と話している。